

個別事業シート

基本目標1

しごとをつくり安心して働けるようにする  
竹原への新しいひとの流れを作る  
仕事づくり ①魅力ある雇用の確保

施策の方向性

事業名	事業期間	事業概要(全体)	当該年度の実績	事業の目標(あれば目標数値)	所管課	総合計画での位置付け		決算額(円)	財源内訳				評価	備考 (検証にあたっての担当課意見等)
						該当将来像・目標像	元氣プロジェクト		国	県	その他	一財		
サテライトオフィス等誘致促進事業	R2	市内産業の活性化及び雇用促進のため、近年業界成長の著しい情報サービス等の企業の誘致を促進する。	市ホームページ等で誘致促進にサテライトオフィス等誘致促進助成制度の紹介をしている。	【目標】 サテライトオフィスの誘致 【目標数値】 なし	産業振興課	将来像3 誰もがいつまでもいきいきと自分らしく輝く活と優しさがあふれるまち 目標像4 様々な仕事に挑戦できる元気な産業が育ち、活気に満ちている	呼び込む"ちから"づくりの推進	0				0	C	【担当課意見】 HP等で積極的に事業の情報提供を行っているが、未だに申請に結び付いていない。 【今後の見通し】 引き続き情報発信を行い、市内へのオフィス誘致を促進に努める。
企業誘致事業	R2	雇用機会の確保と産業の活性化を図るため、県などの関係機関と連携して、竹原工業・流通団地など市内への製造業等の企業誘致活動を展開する。	市ホームページ等で企業誘致及び増設に係る奨励金を紹介した。工場立地法の緑地面積率の緩和を図った。	【目標】 企業誘致に伴う新規雇用者数 【目標数値】 30人(R2-R6累計)	産業振興課	将来像3 誰もがいつまでもいきいきと自分らしく輝く活と優しさがあふれるまち 目標像4 様々な仕事に挑戦できる元気な産業が育ち、活気に満ちている	—	0				0	B	【担当課意見】 R2年度は1区画が購入され、残りG区画のみとなった。 【今後の見通し】 引き続き奨励金制度の広報に努め、企業誘致を促進し雇用の促進を図る。
ふるさと就職登録制度推進事業	R2	市内事業所の人材確保を図るため、市内への就職希望者の情報を登録し、登録情報を市内事業所に提供する。	HPや広報誌等で、本制度を周知するとともに、市内の県立高等学校に出向き登録者を募った。登録者情報をHPに掲載するとともに、就職ガイダンス参加事業所に制度を紹介した。R2年度ふるさと就職登録希望者数は76人と目標を達成していない。	【目標】 ふるさと就職登録希望者数 【目標数値】 R6-150人	産業振興課	将来像3 誰もがいつまでもいきいきと自分らしく輝く活と優しさがあふれるまち 目標像4 様々な仕事に挑戦できる元気な産業が育ち、活気に満ちている	—	0				0	C	【担当課意見】 令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため成人式が開催できず、成人式での登録者を募ることができなかったことが影響し、登録者の増加数は目標数値に達成しなかった。 【今後の見通し】 今後はSNS等の活用を強化し、登録者を募るとともに、登録者に就職ガイダンス案内を送付し、市内事業所への就職に繋がるよう取り組む。
就職ガイダンス開催事業	R2	市内事業所の人材確保を図るため、新卒を含むすべての就職希望者を対象に、就職ガイダンスを開催する。	R3年2月に、就職ガイダンスを開催した。13事業所が参加し、就職ガイダンス参加者13名のうち3名が採用となった。	【目標】 就職ガイダンス参加者のうち市内企業への就職者数 【目標数値】 R6-20人	産業振興課	将来像3 誰もがいつまでもいきいきと自分らしく輝く活と優しさがあふれるまち 目標像4 様々な仕事に挑戦できる元気な産業が育ち、活気に満ちている	—	66,278				66,278	C	【担当課意見】 令和2年度は新型コロナウイルスの影響から、就職ガイダンスへの参加者数、参加事業所数及び就職者数は減少した。 【今後の見通し】 今後はSNS等の活用を強化し、登録者を募るとともに、登録者に就職ガイダンス案内を送付し、市内事業所への就職に繋がるよう取り組む。

個別事業シート

基本目標1 しごとをつくり安心して働けるようにする  
竹原への新しいひとの流れを作る  
施策の方向性 仕事づくり ②創業の促進

事業名	事業期間	事業概要(全体)	当該年度取組	事業の目標(あれば目標数値)	所管課	総合計画での位置付け		決算額(円)	財源内訳				評価	備考 (検証にあたっての担当課意見等)
						該当す将来像・目標像	元気プロジェクト		国	県	その他	一財		
サテライトオフィス等誘致促進事業【再掲】	R2	市内産業の活性化及び雇用促進のため、近年業界成長の著しい情報サービス等の企業の誘致を促進する。	市ホームページ等で誘致促進にサテライトオフィス等誘致促進助成制度の紹介をしている。	【目標】 サテライトオフィスの誘致 【目標数値】 なし	産業振興課	将来像3 誰もがいつまでもいきいきと自分らしく輝く活と優しさがあふれるまち 目標像4 様々な仕事に挑戦できる元気な産業が育ち、活気に満ちている	呼び込む“ちから”づくりの推進	0					0	C 【担当課意見】 HP等で積極的に事業の情報提供を行っているが、未だに申請に結び付いていない。 【今後の見通し】 引き続き情報発信を行い、市内へのオフィス誘致を促進に努める。
空き店舗等改修補助事業	R2	空き店舗の増加による商店街の空洞化や衰退を打開するとともに、移住希望者の受入環境としても寄与し、地域の賑わいを創出するため、空き店舗等を活用する創業者等に対して店舗改修に係る経費の一部を助成する。	HPや広報誌等で募集を行ったが、コロナ禍も影響し、申請件数は0件であった。R2年度から、対象業種に、情報サービス業、インターネット付随サービス業、コールセンター業等を追加、対象物件に、忠海エリアの空き家を追加するなど、対象の拡充を図った。	【目標】 空き店舗等を活用した創業数 【目標数値】 年3件	産業振興課	将来像3 誰もがいつまでもいきいきと自分らしく輝く活と優しさがあふれるまち 目標像4 様々な仕事に挑戦できる元気な産業が育ち、活気に満ちている	呼び込む“ちから”づくりの推進	0					0	B 【担当課意見】 R2年度は、コロナ禍も影響し、申請件数は0件であったが、翌年度の申請検討も含め、本事業への相談は多かった。 【今後の見通し】 R3年度は、既に2件の申請があり、相談も多い。引き続き、空き店舗等の改修による創業を支援し、地域の賑わい創出に取り組む。
				【目標】 【目標数値】										【担当課意見】 【今後の見通し】
				【目標】 【目標数値】										【担当課意見】 【今後の見通し】
				【目標】 【目標数値】										【担当課意見】 【今後の見通し】

個別事業シート

**基本目標1** しごとをつくり安心して働けるようにする  
竹原への新しいひとの流れを作る  
**施策の方向性** 仕事づくり ③地域産業の振興

事業名	事業期間	事業概要(全体)	当該年度の取組	事業の目標(あれば目標数値)	所管課	総合計画での位置付け		決算額(円)	財源内訳				評価	備考 (検証にあたっての担当課意見等)
						該当す将来像・目標像	元氣プロジェクト		国	県	その他	一財		
地域おこし協力隊事業	R2	都部市からの地域おこし協力隊2名を募集し、少子高齢化の進行が顕著で一次産業者の割合が高い振興山村(田万里・仁賀)等の活性化、竹原市郷土産業振興館を中心とした、地域資源の活用やブランド化の推進を図る。	R2年7月から協力隊員2人を委嘱し、地域活性化の活動を実施した。	【目標】 振興山村の活性化及び地域資源の活用、ブランド化の推進 【目標数値】 なし	産業振興課	将来像3 誰もがいつまでもいきいきと自分らしく輝く活と優しさがあふれるまち 目標像4 様々な仕事に挑戦できる元氣な産業が育ち、活気に満ちている	—	6,367,493			6,367,493	0	B	【担当課意見】 R2年7月から協力隊員2人を委嘱し、地域活性化の活動を実施している。 【今後の見通し】 隊員の任期が最長3年となっていることから、継続的かつ効果的な取組が実施できるよう支援していく。
築磯漁場整備事業	R2 【隔年】	メバル、マダイ、ヒラメ、オニオコゼ、カサゴ、キジハタ等の稚魚放流と、放流した稚魚を初めとする魚類の棲家となる漁場の整備を一体的に推進することで、主要な漁獲物の資源増大を図る。	R2年12月施工開始 【施工方法】 13.5m×18.0mの長方形の範囲内に、高さ2.0m程度で自然石(トシ)を設置する。(2か所)	【目標】 放流した稚魚等の良好な漁場の整備を図る 【目標数値】 なし	産業振興課 建設課	将来像3 誰もがいつまでもいきいきと自分らしく輝く活と優しさがあふれるまち 目標像4 様々な仕事に挑戦できる元氣な産業が育ち、活気に満ちている	—	4,500,000		3,000,000		1,500,000	B	【担当課意見】 放流した稚魚等の良好な漁場を整備することができた。かつての漁場を再生するために、今後も継続した整備が必要。 【今後の見通し】 漁業者の所得向上等のため、引き続き築磯漁場整備事業を実施し、良好な漁場の整備を図っていく。
農業振興地域整備計画更新事業	R2~R3	農業振興地域の整備に関する法律により農業振興地域整備計画の抜本的な計画改正を5年を目標に実施することとされているが、平成18年から改正しておらず、現状の「守るべき農用地」を適切に反映する必要があることから更新を行う。	農業振興地域整備計画に関する基礎調査として、農用地等の面積、土地利用、農業就業人口の規模、人口規模、農業生産その他農林水産省令で定める事項に関する現況及び将来の見通しについての調査を行った。	【目標】 農業振興地域整備計画の更新 【目標数値】 なし	産業振興課	将来像3 誰もがいつまでもいきいきと自分らしく輝く活と優しさがあふれるまち 目標像4 様々な仕事に挑戦できる元氣な産業が育ち、活気に満ちている	—	2,140,000				2,140,000	A	【担当課意見】 R2年度は、当初の予定通り農業振興地域整備計画の基礎調査が完了した。 【今後の見通し】 R3年度は、基礎調査の内容を反映させた農業振興地域整備計画を策定する。
中小企業融資制度補助事業	R2	市内中小企業者の資金繰りを支援するため、市内金融機関に融資資金を預託し、低利な融資制度を運営する。	市内金融機関に融資資金を預託し、低利な融資制度を運営するとともに、信用保証料の低減を図った。	【目標】 市内中小企業者の資金繰りの支援 【目標数値】 なし	産業振興課	将来像3 誰もがいつまでもいきいきと自分らしく輝く活と優しさがあふれるまち 目標像4 様々な仕事に挑戦できる元氣な産業が育ち、活気に満ちている	—	200,000,000				200,000,000	B	【担当課意見】 R2年度は、新型コロナウイルスの影響により、国のコロナ融資への申込が多く、市の中小企業融資への申込が少なかった。 【今後の見通し】 R2年度で国のコロナ融資が終了したため、R3年度は、市の中小企業融資の申込が増えている。今後も、制度内容を適宜見直ししながら、中小企業者の資金繰りを支援していく。
郷土産業振興館運営事業	R2	農村漁村の所得向上や雇用創出を図るため、価値の高まる可能性のある一次産品を中心に加工して商品化する拠点施設の運営を行い、本市の農林水産物の高付加価値化や一年を通して安定供給できる仕組みを構築する。	地元産品を活用した商品を製造し、売上の増加を図るとともに、ふるさと産品福袋PR事業により地元産品の販売について、その魅力や食べ方をPRすることで関係人口を増やすことができた。商品開発に係るアドバイザーにより提案された商品を開発できるよう、設備を導入した。	【目標】 新規雇用者の増加、魅力ある商品の開発、販路拡大 【目標数値】 売上:43,650千円 新規雇用者:6人 ご当地料理もしくは加工品:9品	産業振興課	将来像3 誰もがいつまでもいきいきと自分らしく輝く活と優しさがあふれるまち 目標像4 様々な仕事に挑戦できる元氣な産業が育ち、活気に満ちている	—	20,053,347		5,939,666		14,113,681	C	【担当課意見】 目標に対しての実績が売上:5,940千円、新規雇用者:6人、加工品7品、コロナ禍の影響もあり、売上は予算額大きく下回ったが、新規雇用者と加工品は順調に推移していると考えられる。 【今後の見通し】 売り上げ目標の達成に向け、ECを中心とした販路の拡大やSNS等による広報・発信、加工品の開発に取り組む。
鳥獣被害対策事業	R2	農林水産業への鳥獣による被害を防止することを目的とし、侵入防止策の整備や加害鳥獣の捕獲、捕獲の担い手の育成等の取組を一体的に推進する。	鳥獣の侵入防止柵設置補助や箱わなの貸出し、狩猟免許取得費用の助成、担い手の園圃への大規模侵入防止柵の設置を行った。 令和2年度のイノシシによる被害額は333万円、シカによる被害額は93万円であった。	【目標】 鳥獣による被害額の減少 【目標数値】 イノシシ335万円 シカ53万円	産業振興課	将来像3 誰もがいつまでもいきいきと自分らしく輝く活と優しさがあふれるまち 目標像4 様々な仕事に挑戦できる元氣な産業が育ち、活気に満ちている	—	10,835,000	2,765,000			8,070,000	B	【担当課意見】 侵入防止柵と捕獲の一体的な活動により、イノシシの捕獲頭数が増加し、イノシシにおける被害金額の目標値を達成したが、その他鳥による果樹への被害が減少していない。 【今後の見通し】 引き続き、侵入防止柵と捕獲の一体的な活動を推進し、シカにおける被害金額の目標値の達成を目指す。
水産資源振興事業	R2	メバルやオニオコゼ、マダイなどの種苗放流や簡易的な漁場の整備等を行うことにより、竹原市の水産資源の維持増大させるとともに、漁業者の所得を向上させる。	メバルやオニオコゼ、マダイの種苗放流やたこつぼ型産卵礁・小型魚礁の設置並びにその効果検証を行った。	【目標】 水産資源の高付加価値化及び竹原市水産資源の発展の推進 【目標数値】 なし	産業振興課	将来像3 誰もがいつまでもいきいきと自分らしく輝く活と優しさがあふれるまち 目標像4 様々な仕事に挑戦できる元氣な産業が育ち、活気に満ちている	—	4,057,529		50,000		4,007,529	B	【担当課意見】 種苗放流については、漁業者から放流効果があると聞いている。小型魚礁については、潜水調査により、魚類の住処として一定の効果が実証できたが、若南漁協組合の漁獲高は減少傾向にあり、今後の課題として捉えている。 【今後の見通し】 引き続き、種苗放流と漁場整備の一体的な取組を行い、水産資源の維持増大、高付加価値化を推進する。
6次産業化地産地消推進事業	R2	市内の農林水産物の生産・商品開発・販売力(広報)の向上による農林水産業を核とした地域の活性化(6次産業化)及び地産地消の推進を目的とした活動をする団体への補助を行う。	竹原市6次産業化地産地消推進協議会の実施する食の研修事業及び食の体験・交流事業への補助を行った。 令和2年度においては、新型コロナウイルス感染症の影響のため、例年、協議会が実施していたフードフェスティバルへの出店ができず、夢フラザへの出品も縮小した。	【目標】 竹原の食資源を生かし、農林水産物の生産から加工、販売までを行う6次産業化事業並びに地産地消の推進による農山村の活性化及び所得向上 【目標数値】 なし	産業振興課	将来像3 誰もがいつまでもいきいきと自分らしく輝く活と優しさがあふれるまち 目標像4 様々な仕事に挑戦できる元氣な産業が育ち、活気に満ちている	—	86,000				86,000	B	【担当課意見】 R2年度は新型コロナウイルス感染症対策の観点から、ほとんど事業を行うことができなかった。 【今後の見通し】 今後の状況を鑑み、実施される事業への補助を行い、6次産業化を推進する。

個別事業シート

基本目標1

しごとをつくり安心して働けるようにする  
竹原への新しいひとの流れを作る  
移住・定住の促進 ①まちへの誇りと愛着の醸成

施策の方向性

事業名	事業期間	事業概要(全体)	当該年度の取組	事業の目標(あれば目標数値)	所管課	総合計画での位置付け		決算額(円)	財源内訳				評価	備考 (検証にあたっての担当課意見等)	
						該当す将来像・目標像	元気プロジェクト		国	県	その他	一財			
シティプロモーション事業	R2	市民のまちへの誇りと愛着を高めるとともに、市内外の人々から“選ばれるまち”となり、本市に「訪れたい」「関わりたい」「住みたい」人を増やすため、各種シティプロモーション事業を実施する。	「たけはらファンクラブ」の創設・運営、広島ドラゴンフライズとの連携、わがまち魅力発信隊による本市のPR実施を実施した。	【目的】市民のまちへの誇りと愛着を高めるとともに、市内外の人々から「選ばれるまち」となり、本市に「訪れたい」「関わりたい」「住みたい」人を増やす。 【目標数値】たけはらファンクラブ加入者数 R3.3(現在値)=864, R6=200 転出超過数 H30=320人, R6=144人	企画政策課	将来像1 自然・歴史・文化に育まれ、人々に守られ磨かれた資源が人々を魅了する賑わいのあるまち 目標像1 竹原らしさを感じるまちに人々が集まり賑わいが生まれる	呼び込む“ちから”づくりの推進	454,372					454,372	A	【担当課意見】令和2年8月に、本市を応援してくれる人達で組織する「たけはらファンクラブ」を創設した。 【今後の見通し】「たけはらファンクラブ」については、情報発信のみでなく、本市との関係性が深まる取組を進めていく。また、広島ドラゴンフライズとの連携事業やわがまち魅力発信隊による本市のPR事業に関しては引き続き継続して行う。
コミュニティ・スクール導入事業	H31～R2	市内のすべての小中義務教育学校において、地域とともにある学校「コミュニティ・スクール」を実現するため、校内研修や準備委員会に係る指導助言などを実施する。令和2年度は、コミュニティスクール実施校4校、設置準備校8校を予定。	令和3年度の市内全校におけるコミュニティ・スクールのスタートに向け、学校運営協議会未設置校に準備委員会を立ち上げ、コミュニティ・スクールについての事前協議等を行った。また、新型コロナウイルス感染症対策に伴い、準備委員や保護者を対象とした、市主催研修の実施が困難な中で、市教育委員会の担当者が講師となり、管理職研修会等で指導講話を行った。	【目標】令和3年度、全ての竹原市立学校に学校運営協議会を設置する。 【目標数値】なし	総務学事課	将来像2 “文教のまちたけはら”の精神を受け継ぎ、地域を支え、世界中で活躍する人々を輩出するまち 目標像2 子供たちが夢の実現に向け挑戦できる環境が確保されている	育てる“ちから”づくりの推進	281,480					281,480	A	【担当課意見】令和2年度には、コロナ禍でコミュニティ・スクール導入に向けての会議や研修等の実施に制限があったものの、各学校において学校運営協議会の設置に向けた動きを進めることができた。 【今後の見通し】令和3年度は、各学校運営協議会へ市教育委員会担当者が出席し、コミュニティ・スクールの円滑な推進に向けた支援を行っていくとともに、研修会等の実施を計画する。
たけはら未来ミーティング	R2	第6次総合計画基本構想及び行政経営強化方針を踏まえ、市民の声を今後のまちづくりに活かすことによって、市民の市政への参画を促進し、協働のまちづくりの更なる成熟化を図るため、地域課題の解決や竹原の魅力づくりなどのテーマを設定し、そのテーマに応じて関係する市民と市長が、本市の未来創造に繋がる自由闊達な意見交換を行う。	新型コロナウイルス感染拡大防止のため、令和2年度はミライミーティングの開催は行わなかった。	【目標】移住・定住者をターゲットにした意見交換の場の設定や未開催の地区でのミライミーティングを通じて、地域課題の解決や竹原のさらなる魅力向上を目指す。 【目標数値】なし	企画政策課	将来像1 自然・歴史・文化に育まれ、人々に守られ磨かれた資源が人々を魅了する賑わいのあるまち 目標像1 竹原らしさを感じるまちに人々が集まり賑わいが生まれる	—	0					0	C	【担当課意見】令和2年度には新型コロナウイルス感染症の影響から、ミライミーティングの開催は行わなかった。 【今後の見通し】令和3年度は、従来の地区ごとに実施を行う形に加え、移住・定住者にターゲットを絞った市民とのミライミーティングを計画し、新たな地域課題やニーズを把握する。
				【目標】 【目標数値】											【担当課意見】 【今後の見通し】
				【目標】 【目標数値】											【担当課意見】 【今後の見通し】

個別事業シート

基本目標1

しごとをつくり安心して働けるようにする  
竹原への新しいひとの流れを作る  
移住・定住の促進 ②U・I・Jターンの促進

施策の方向性

事業名	事業期間	事業概要(全体)	当該年度の取組	事業の目標(あれば目標数値)	所管課	総合計画での位置付け		決算額(円)	財源内訳				評価	備考 (検証にあたっての担当課意見等)
						該当す将来像・目標像	元気プロジェクト		国	県	その他	一財		
未来の人材育成推進事業(Uターン促進分)	R2	大学進学等による転出者のUターンを促すため、竹原市奨学金基金等による学資の無利子貸付制度の利用者が、貸付期間終了後に市内に帰郷し居住する場合は、一定期間以後の貸付金の返還を免除する。(条件付奨学金貸付制度) ○対象奨学金基金:竹原市奨学金基金、久保谷奨学金基金、中国生コンクリート奨学金基金 ○対象者:奨学金の貸付を受けている者でR2年以降の卒業予定者	R2年度竹原市奨学金審査会及び竹原市教育委員会へ免除等のルールについて意見を求めた後、規則改正を行った。 その後、現在奨学金の貸与を受けている者に対して、当該制度の趣旨と手続きを案内。さらに、R2年度の卒用予定者に対して、案内を実施し、R3年4月1日から手続きの開始を図る取り組みを行った。 また、R3年度より奨学金貸与希望者へも制度周知をし、貸与希望を促した。	【目的】 竹原市奨学生の大学進学等による転出者のUターンを促す。 【目標数値】 なし	総務学事課	将来像2 “文教のまちたけはら”の精神を受け継ぎ、地域を支え、世界中で活躍する人々を輩出するまち 目標像2 子供たちが夢の実現に向け挑戦できる環境が確保されている	育てる”ちから”づくりの推進	0				0	-	【担当課意見】 R2年度は、R3年度より事業実施する上での制度設計を行った後、制度周知を行うことができた。 【今後の見通し】 R3年4月1日より申し込み受付。R3年3月31日卒業の対象者は2名。うちR3年4月1日より4名が手続きを実施し、竹原市へUターンとなっている。
サテライトオフィス等誘致促進事業【再掲】	R2	市内産業の活性化及び雇用促進のため、近年業界成長の著しい情報サービス等の企業の誘致を促進する。	市ホームページ等で誘致促進にサテライトオフィス等誘致促進助成制度の紹介をしている。	【目標】 サテライトオフィスの誘致 【目標数値】 なし	産業振興課	将来像3 誰もがいつまでもいきいきと自分らしく輝く活と優しさがあふれるまち 目標像4 様々な仕事に挑戦できる元気な産業が育ち、活気に満ちている	呼び込む”ちから”づくりの推進	0				0	C	【担当課意見】 HP等で積極的に事業の情報提供を行っているが、未だに申請に結び付いていない。 【今後の見通し】 引き続き情報発信を行い、市内へのオフィス誘致を促進に努める。
空き店舗等改修補助事業【再掲】	R2	空き店舗の増加による商店街の空洞化や衰退を打開するとともに、移住希望者の受入環境としても寄与し、地域の賑わいを創出するため、空き店舗等を活用する創業者等に対して店舗改修に係る経費の一部を助成する。	HPや広報誌等で募集を行ったが、コロナ禍も影響し、申請件数は0件であった。 R2年度から、対象業種に、情報サービス業、インターネット付随サービス業、コールセンター業等を追加。対象物件に、忠海エリアの空き家を追加するなど、対象の拡充を図った。	【目標】 空き店舗等を活用した創業数 【目標数値】 年3件	産業振興課	将来像3 誰もがいつまでもいきいきと自分らしく輝く活と優しさがあふれるまち 目標像4 様々な仕事に挑戦できる元気な産業が育ち、活気に満ちている	呼び込む”ちから”づくりの推進	0				0	B	【担当課意見】 R2年度は、コロナ禍も影響し、申請件数は0件であったが、翌年度の申請検討も含め、本事業への相談は多かった。 【今後の見通し】 R3年度は、既に2件の申請があり、相談も多い。引き続き、空き店舗等の改修による創業を支援し、地域の賑わい創出に取り組む。
子育て世帯向け地域優良賃貸住宅管理事業	R2	良好な居住環境を備えた子育て世帯向けの賃貸住宅をH28年度から20年間借り上げるとともに、家賃助成制度を設けることにより、将来を担う子育て世帯の移住・定住を促進する。	家賃助成 入居募集(広報、HP、不動産情報サイト) 入居戸数(年度末) R元年度 25戸 R2年度 27戸	【目標】 全入居 【目標数値】 全27戸入居	都市整備課	将来像4 瀬戸内の恵まれた風土と市民の絆のもと、誰もが安全・安心で快適に生活できるまち 目標像6 生活の基盤が整備され、快適に暮らしている	-	24,885,000	2,677,000	13,905,736	8,302,264	A	【担当課意見】 全27戸のうち市外からの入居は17戸事業開始からR2年末までに17戸が退去し、うち6戸が市内に一戸建てを新築 【今後の見通し】 R2年度はHP等の募集情報から19件の問い合わせがあった。年度途中の入退去ははてくるが、今後も継続して満室が見込める。	
交流促進事業	R2	移住・定住人口の拡大を図るため、移住先として選ばれるために有効な取組を実施する。	オンライン移住・定住セミナーの実施、受け入れ環境整備補助金の交付、移住・定住プロモーションなどの事業を実施した。	【目標】 移住・定住人口の増加による、地域振興を図る。 【目標数値】 移住者数(施策に関連したものに限り) R2年度(現在値)=3人 R2~R6=50人(累計)	企画政策課	将来像1 自然・歴史・文化に育まれ、人々に守られ磨かれた資源が人々を魅了する賑わいのあるまち 目標像1 竹原らしさを感じるまちに人々が集まり賑わいが生まれる	-	5,815,900	4,579,500	1,108,000	128,400	C	【担当課意見】 R2年度には、移住定住プロモーション事業、移住定住受け入れ環境整備事業を実施した。新型コロナウイルス感染症の影響により、移住・定住セミナーについては、オンラインでの実施となった。 【今後の見通し】 R3年度は、関係・移住定住人口創出・拡充イベントの実施、移住支援金を交付などにより、関係人口の及び移住・定住人口の増加による、地域振興を図る。	

個別事業シート

**基本目標1** しごとをつくり安心して働けるようにする  
竹原への新しいひとの流れを作る

**施策の方向性** 移住・定住の促進 ③暮らしやすい環境の創出

事業名	事業期間	事業概要(全体)	当該年度の取組	事業の目標(あれば目標数値)	所管課	総合計画での位置付け		決算額(円)	財源内訳				評価	備考 (検証にあたっての担当課意見等)
						該当す将来像・目標像	元氣プロジェクト		国	県	その他	一財		
駅前賑わい空間再生事業	R2	竹原駅前の低未利用地の活用を図り、エリア全体で市民や来訪者にとって居心地が良く、歩きたくなる空間を創出するための取組を実施する。 ・駅前地域の活性化のためのビジョンづくり ・クラウドファンディングを活用した空き店舗等低未利用地の活用推進 ・空き地等を活用したイベント等への支援 ・駅前駐輪場の移転 など	竹原駅前エリアオーカブルビジョンを官民連携で策定し、令和3年2月に公表した。また、駅前エリアで居心地の良い滞留空間創出のための社会実験を行い、地域住民・沿道商店等のまちづくり活動に対する意識醸成を図った。	【目的】 エリア全体で市民や来訪者にとって居心地が良く、歩きたくなる空間を創出し、車中心から人中心のまちづくりを進める。 【目標数値】 なし	都市整備課 企画政策課	将来像2 "文教のまちたけはら"の精神を受け継ぎ、地域を支え、世界中で活躍する人々を輩出するまち 目標像2 子供たちが夢の実現に向け挑戦できる環境が確保されている	呼び込む"ちから"づくりの推進	16,426,300	1,601,000	#####	1,525,300	B	【担当課意見】 R2年度の社会実験、ビジョン公表によって地域住民・沿道商店のまちづくり活動への参画意欲につながっている。 【今後の見通し】 R3年度も社会実験の範囲や内容等を充実させ、更なる住民主体のまちづくり活動の活発化へつなげる。	
地域公共交通推進事業	R2～R3	地域公共交通網の再編を行い、地域公共交通の利用環境の向上を図るため、新たな交通モードの検討を行う。	R3年度の実証運行事業に向け、R2年3月に公共交通会議を実施。R3年5月からの実証運行開始に向けた検討が進められた。	【目的】 令和3年度のデマンド型乗合タクシー実証運行の開始 【目標数値】 なし	企画政策課	将来像1 自然・歴史・文化に育まれ、人々に守られ磨かれた資源が人々を魅了する賑わいのあるまち 目標像1 竹原らしさを感じるまちに人々が集まり賑わいが生まれる	呼び込む"ちから"づくりの推進	6,700,000			6,700,000	A	【担当課意見】 R2年度には実証運行に向け、公共交通会議を実施。事業開始に向けた検討が進められた。 【今後の見通し】 R3年度から「デマンド型乗合タクシー」の実証運行が、吉名・仁賀地区で開始。今後運行期間中の利用実績や地域住民へのアンケート結果などを基に、今後の公共交通のあり方について効果検証を行う。	
国土強靱化地域計画策定事業	R2	今後発生が予想される様々な災害に対して、市民や地域、行政が手を取り合い、自助・共助・公助の精神で一体的に地域強靱化に取り組むための基本方針としての「強靱化地域計画」を策定する。	リスクシナリオ毎の施策の取組内容及び指標の現状把握等を行い、令和3年3月に竹原市強靱化地域計画を策定した。	【目的】 大規模自然災害が起こっても機能不全に陥らない、「強さ」と「しなやかさ」を持った災害に強いまちづくりを推進していくため、竹原市強靱化地域計画を策定する。 【目標数値】 なし	危機管理課	将来像4 瀬戸内の恵まれた風土と市民の絆のもと、誰もが安全・安心で快適に生活できるまち 目標像7 市民が支え合う絆を大切に、安全・安心な生活環境が確保されている	—	0			0	A	【担当課意見】 国土強靱化基本計画及び広島県強靱化地域計画との調和を図りつつ、竹原市総合計画とも整合を図りながら策定した。 【今後の見通し】 毎年度進捗状況の確認を行うとともに、本市の強靱化に向けて設定した「起きてはならない最悪の事態(リスクシナリオ)」ごとの今後の施策について推進していく。	
空き家対策総合支援事業	R2～R4	活用可能な空き家は市場への流通を促し、空き家の有効活用により移住・定住を促進することで、空き家の発生を予防する。また、管理不全な空き家に対しては、法的措置等の実施に向けた体制強化を行うとともに、除却を進める。	(改修費支援) 移住者が空き家を取得し、居住のために必要な空き家の改修費に対して支援(除却費支援) 周辺へ危険を及ぼしている空き家の除却費に対して支援 (家財道具処分費支援) 空き家の流通を促進するため、家財道具処分費に対して支援 (所有者調査業務) 周辺へ危険を及ぼしている空き家で所有者が死亡し、相続人が複数人いる場合、司法書士に調査を依頼し、相続人を特定する。	【目標】 市内にある空き家の解消 【目標数値】 支援制度の利用 18件/年	都市整備課	将来像2 "文教のまちたけはら"の精神を受け継ぎ、地域を支え、世界中で活躍する人々を輩出するまち 目標像2 子供たちが夢の実現に向け挑戦できる環境が確保されている	呼び込む"ちから"づくりの推進	7,389,000	3,694,000	-	-	3,694,000	A	【担当課意見】 R2年度から実施した空き家支援制度は、予算を超える申請があり、空き家の抑制、利活用、除却など段階的に応じた空き家対策を実施した。 【今後の見通し】 R2年度実施した空き家支援制度を継続して行う。
災害時(自治会充)一斉電話発信事業	R2	災害時等において各自治会に一斉電話を発信し、避難指示等の避難情報など伝達すべき情報を音声で伝達するシステムを活用する。	75自治会すべての代表者の電話番号を登録し、一斉電話の訓練を実施	【目標】 75自治会すべてにおいて、毎年最新の情報を更新していく。 【目標数値】 75自治会(各3名)	危機管理課	将来像4 瀬戸内の恵まれた風土と市民の絆のもと、誰もが安全・安心で快適に生活できるまち 目標像7 市民が支え合う絆を大切に、安全・安心な生活環境が確保されている	—	483,670			483,670	A	【担当課意見】 災害時等に一斉に情報発信できるツールの一つとして、有効であると考えている。 【今後の見通し】 災害時等の迅速な情報伝達として活用していく。	
新開土地区画整理事業	R2	有効な土地利用とともに、良好な居住環境を整備を図るため、新開地区において土地区画整理事業を引き続き実施する。	関係権利者との合意形成を図りながら、補償・道路整備・土地造成等各種事業に取り組んだ。	【目標】 道路・水路・公園等の都市基盤整備により、良好な居住環境を創出し、都市機能の誘導・移住定住の促進を図る。 【目標数値】 令和2年度末事業進捗率 86%	都市整備課	将来像2 "文教のまちたけはら"の精神を受け継ぎ、地域を支え、世界中で活躍する人々を輩出するまち 目標像2 子供たちが夢の実現に向け挑戦できる環境が確保されている	—	91,961,367	37,934,847	#####	27,346,520	A	【担当課意見】 R2年度は関係権利者との合意形成をほぼ完了し、家屋移転・区画道路工事に着手した。 【今後の見通し】 R3年度も引き続き、関係権利者との合意形成を図りながら、補償・道路・土地造成等の事業を進める。	
地域防災リーダー養成事業	R1～R5	地震や風水害等をはじめとする災害の発生に備え、防災・減災に関する専門的な知識と技能を有する「防災リーダー」を養成する「竹原市地域防災リーダー研修会」を開催	竹原市地域防災リーダー養成並びにフォローアップ研修会の開催 防災リーダーが参画し避難の呼びかけ体制づくり構築に向けた取組の実施	【目標】 75自治会のうち、35自治会に防災リーダーが在籍しているが、各自治会に最低1名を登録するよう防災リーダーを養成していく。また、女性の防災リーダーを増やし、持続可能な防災・減災を目指す。 【目標数値】 75自治会(各1名以上)	危機管理課	将来像4 瀬戸内の恵まれた風土と市民の絆のもと、誰もが安全・安心で快適に生活できるまち 目標像7 市民が支え合う絆を大切に、安全・安心な生活環境が確保されている	—	152,000	76,000		76,000	A	【担当課意見】 自発的に防災リーダーとして登録者も年々増えており、個々の防災に対する意識も高くなってきている。 【今後の見通し】 主体的に各防災リーダーが地域や学校等と連携して、市民に防災意識の普及啓発に努めている。引き続き地域防災リーダーの育成及び知識向上に努める。	